令和５年度

入学試験問題

――１期――

国　語

令和５年１月15日

いわき准看護学校

一　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

※日本の四季は春夏秋冬にはっきり分かれているが、その間に①微妙なニューアンスをもつ一時期がある。春だけをとりあげても、初春、早春、晩春といったように、その言葉を聞いたとたんにそれぞれの季節の雰囲気から精神に及ぼす感じかたまで伝わって来る。②それは季節をこまかく分類しているのではなく、互いに目に見えぬ糸でつながりつつ、自然に春が育って行く様を表しているのである。

中でも③「木の芽時」というのは、ものみな萌える春を象徴する言葉として独特のものだろう。もともとは春は張るから出た言葉で、和歌の序詞[a]として、「木の芽もはるの何々」といったように用いられてきたが、やがて木の芽といえば山椒の花や芽を意味するようになり、樹木から茶の若葉に至るまでそう呼ばれるようになった。［　A　］木の芽時という時間は、短いといえば短いし、長いといえば早春の終りごろから晩春までつづくのである。

昔から木の芽時は、健康によくない時期といわれて来た。木の芽が動く時は、人間の心身も不安定になるからで、特に躁鬱病の人とか、私のような喘息持ちは④こたえる。喘息だけではなく、私は二度も肺炎にかかったことがあるし、三度も足を折ったことがある。去年は膝のカンセツ炎[b]になり、一ヶ月も病院に入っていた。一年中でもっとも美しい季節を、毎年そんな風にして過してしまうのだが、[c]総じて美しいものには何か魔性のものがひそんでいるらしい。

昔の人々は長い経験からそういうことを知っており、多くの神社や仏閣で、「鎮花祭」や「御霊会」が行われた。京都の今宮神社で現在も行っている「やすらい祭」も、花鎮めの行事の一種で、「やすらい花や」（花よ、静かにお休みなさい）と囃しながら踊ることによって、物の怪をなだめるとともに、人心の不安を排除したのである。

今は杉の花粉症がはやっているが、新聞で花粉の情報を毎日知らせてくれても⑤何の役にも立つまい。「樹医」をもって⑥自任する山野忠彦氏は、戦後、生態系にのっとった植生を無視し、[d]シゲンとして有効な針葉樹を植えたために、昔はなかった花粉症に悩まされるようになったといわれている。いってみれば私たちは自然に報復されているのである。

私は花粉症には（まだ）ならないが、喘息のケが起る度に、「やすらい花や」と唱えて胸をさする。そんなお呪いでよくなる筈もないが、少なくとも悪くはならない。そうして［　B　］耐えている間に軽くなる。一番いけないのは⑦病のペースに巻きこまれることで、そこから逃れることが大事なのだと、昔の人の[e]智恵は教えてくれる。

（『夕顔』（白洲正子著）より）

※ニューアンス＝ニュアンスと同じ。色や音、意味などの微妙な違い。

問一　二重傍線部a～eのカタカナを漢字に直し、漢字には平仮名で読みを答えなさい。

問二　傍線部④、⑥の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

④
- ア　困難に耐えて、次第にその困難に慣れていくこと。
- イ　他からの働きかけに沿うような反応を示すこと。
- ウ　刺激や苦痛を身にしみて感じ、ひどく負担になること。

⑥
- ア　自ら、自己を立派なものと思い込むこと。
- イ　自ら、あることを自分の任務とすること。
- ウ　自ら、認識を新たにして行動すること。

問三　空欄A、Bに入る語として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A
- ア　ところが　　イ　したがって　　ウ　というのは

B
- ア　きっと　　イ　もっと　　ウ　じっと

問四　傍線部①の具体的な内容にあたる箇所を、本文から十八字で抜き出しなさい。なお、句読点も一字とする。

問五　傍線部②の指す内容を次のように説明して完成させたい。空欄に入る八字の箇所を本文から抜き出しなさい。なお、句読点も一字とする。

［　（八字）　］といったような言葉。

問六　傍線部③について、「木の芽時」とは具体的にどういう点が「独特」だというのか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア　もともとは和歌の序詞として用いられてきた点。
- イ　短いといえば短く長いといえば長い時間を指す点。
- ウ　昔から健康にはよくない時期といわれてきた点。
- エ　一年中で最も美しい季節を示す言葉である点。

問七　傍線部⑤とあるが、筆者はなぜそういうのか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア　人心の不安を排除するものではないから。
- イ　針葉樹は有用な植物であるから。
- ウ　病気やけがを数多く経験したから。
- エ　樹医をもって自任しているから。

問八　傍線部⑦とはどういうことか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア　同じ病気から回復した人によい治療法を教えてもらうこと。
- イ　早く病気を治すために、効果が高いと聞いた薬を急いで服用すること。
- ウ　病気になってしまったことで、うろたえ、いたずらに不安がること。
- エ　気持ちが病を呼ぶと考えて、自分は病気ではないと思い込むこと。

二　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、※藤六といふ歌よみありけり。※下種の家に入りて、人もなかりけるをりを見つけて、入りにけり。鍋に煮ける物をすくひ食ひけるほどに、①家あるじの女、水を汲みて、大路の方より来てみれば、かくすくひ食へば、「いかに、※かく人もなき所に入りて、かくはする物をば参るぞ。②あなうたてや、藤六にこそいましけれ。さらば、歌詠み給へ」と言ひければ、③昔より阿弥陀仏のちかひにて煮ゆる物をばすくふとぞ知るとこそ詠みたりけれ。

（『宇治拾遺物語』より）

※藤六＝平安時代の歌人である藤原輔相
※下種＝身分の低い者
※参る＝召し上がる
※藤六にこそいましけれ＝藤六でいらっしゃったのか

問一　傍線部①、②の訳として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

a「いかに」
- ア　どこに
- イ　どうして
- ウ　いまにも

b「あなうたてや」
- ア　ああ、ひどいことだ
- イ　なんと、こっそりと
- ウ　とても、へんだなあ

問二　二重傍線部「給へ」の読み方を、現代かなづかいのひらがなで答えなさい。

問三　傍線部③の和歌について、次の説明文の空欄Aに当てはまる漢字交じりの動詞を二字の現代語で答えなさい。

> この和歌には、掛詞という技法が用いられている。「ちかひ」には、阿弥陀仏の「誓い」と、さじ（スプーン）を表す「匙」が掛けられている。さらに「すくふ」には、「匙」で「すくう」と、阿弥陀仏が地獄の釜で煮られる衆生を［　A　］とが掛けられている。

問四　本文の内容と合致するものを二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア　藤六は身分が低かったので食べるものもなくいつも困っていた。
- イ　藤六は人のいない家に入り込んで鍋にあった煮物を勝手に食べていた。
- ウ　帰ってきた女主人に非難された藤六は自ら歌を詠んで許してもらおうとした。
- エ　歌人である藤六だと気づいた女主人は、藤六に歌を詠むようにと促した。

――うらにつづく――

三

敬語には、ア尊敬語、イ謙譲語、ウ丁寧語の三つの用法があるが、次の傍線部は、それぞれ何に当たるか、記号で答えなさい。

① 今日は仙台に参ります。
② 校長先生は新聞を読んでいらっしゃる。
③ そのかたを存じ上げています。
④ 父は留守でございます。
⑤ 先生が私にそうおっしゃいました。
⑥ いわきの空は晴れています。

四

次の傍線部の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。

① 穏健な思想の持主。
② 久遠の理想。
③ 道路工事中は徐行運転をしてください。
④ 奴隷の解放運動をすすめる。
⑤ 市役所から埋葬許可証を受け取る。
⑥ 類似の品が出回る。

五

次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

① ゲネツ剤を処方する。
② 新しくケイヤクした保険。
③ 予算をサクゲンされる。
④ 土地の争いがソショウ問題になった。
⑤ ケビョウを使って休んだ。
⑥ ユウビン配達のバイクが通った。

六

次のことわざ・慣用句の空欄に入る語を後の語群から選び、記号で答えなさい。

① 魚心あれば（　　）心
② 飼い犬に（　　）をかまれる
③ （　　）に交われば赤くなる
④ 袖振り合うも他生の（　　）
⑤ 竹馬の（　　）
⑥ 暖簾に（　　）押し

語群（ア 縁　イ 手　ウ 友　エ 朱　オ 腕　カ 水）

七

次の熟語の意味を後から選び、記号で答えなさい。

① 我田引水
② 鶏鳴狗盗
③ 大山鳴動
④ 異口同音
⑤ 疑心暗鬼
⑥ 自画自賛

意味

ア 都合の良いようにこじつける
イ 疑いの心をもつこと
ウ 自分のことを自分でほめること
エ くだらない技能でも役立つこと
オ 大勢が口をそろえて同じことを言うこと
カ 前触れより結果が振るわないこと